

〔増鏡秋十三のみ山〕文保二年二月廿六日、御門園○花おりゐさせ給ふ、春宮醍醐○後はすでに三そちにみた

せ給へば、待遠なりつるに、めでたくおぼさるべし、法皇宇多○後都に出させ給て、世の中をろゑめす、

〔神皇正統記後宇多〕天下を治めたまふ事十三年、思ひの外にのがれましゝて、十餘年ありき、中○

略 其後後醍醐の帝位につきましゝしかば、又まばらく世をまらせ給ひて、三年ばかりありて

讓ましゝき、

〔皇年代略記伏見〕永仁六年八月三日、太上天皇尊號、皇胤○又見神皇正統記、

〔皇代記伏見〕延慶元年十二月廿二日、兵仗宣下、同三年四月三日、兵仗辭退、

〔神皇正統記伏見〕院中にて世をまらせ給ひしが、程なく時移りにしかば、中六とせばかりありて、

又世をしり給ひき、

〔皇年代略記後伏見〕正安三年正月廿八日、太上天皇尊號、運錄○又見皇胤皇胤○皇胤○皇胤○

〔皇代記後伏見〕延慶元年十二月廿八日、兵仗宣下、同廿九日、兵仗御辭退、

〔増鏡今日一の日陰〕おりゐの御門伏見○後十四にて、太上天皇の尊號あり、いとさびはにいたはしき御

事なるべし、纒に三とせにておりゐさせ給へれば、何事のはえもなし、中○さて此君を新院と申

せば、父の院見○伏をば中院ときこゆ、御門二○後條の御父宇多○後は一院と申、法皇深草○後も此比一におは

しますなめり、一院の政事さこしめせば、天下の人又おしかへし一かたになびきたる程も、さも

めの前にうつろひかはる世の中かなとあぢきなし、

〔神皇正統記後伏見〕正和のころ、父の上皇見○伏の御ゆづりにて世をしらせ給ふ、時のみかど園○花

は御弟なれど、御猶子の義なりとぞ、元弘醍醐○後に世の中みだれし時、又まばらくまらせたまふ、

〔増鏡秋十三のみ山〕おりゐのみかど園○花は、御このかみの本院伏見○後と、ひとつ持明院殿にすませ給ふ、

○按ズルニ、正安三年七月、後二條天皇受禪、其後嘉元二年七月、後深草上皇崩御ニ至ル迄約四